
ドラえもん のび太のバイオハザード イレギュラーな者たち

ゼクセル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ドライモン のび太のバイオハザード イレギュラーな者たち

【Zコード】

Z9652Y

【作者名】

ゼクセル

【あらすじ】

突然現れた黒いコートの男を追いかけたら、異世界へと飛んでしまった星也。しかし、運悪くゾンビだらけの街にきてしまったのだつた。果たして星也はこの街を脱出することが出来るのか!/?ちなみに、この作品は僕のレビュー作です。そして、文才〇です。超駄文です。だから、暇で死んでしまうというときにでも読んでいただけたら光栄です。あと、この作品はマイナーなもの、メジャーなもののがコラボするかもしれません。コラボすると超駄文がさらに酷くなる可能性大です。その時はなるべく温かい目で見てください。

第1話 異世界（前書き）

初投稿です。よろしくお願ひします。

第1話 異世界

皆さん、こんにちわ。僕の名前は才川星也です。まあ、自己紹介はこれくらいにさせてもらいます。え、なぜかつて？なぜなら、現在暴徒化した民間人に追いかけられていますから。まるでホラー映画やホラーゲームにでてきそうなものです。そもそも、なぜこうなってしまったのでしょうか？少し時間をさかのぼつて見ましょう。

確か、僕は夏なのに真っ黒なコートを着ている男を怪しいと思い追いかけてました。そして、その後その男は……そうだ！黒い渦を空間に作り出してその中に入つていったんだ！僕はその中に興味本位で入つて……気がついたら此処にいたんでした。それで、あの暴徒化した民間人が出てきて襲いかかってきたから逃げて……現在に至ります。

星也「畜生　！どうなつてるんだこの街　！」

星也は声が街中に響いた気がした。

第1話 異世界（後書き）

意見、感想お待ちしています！

第2話 倉庫（前書き）

今回もよろしくお願ひします。星也の能力がほんの少し出でます。

第2話 倉庫

ずっと逃げてるのが嫌になつた星也は倉庫らしきところへ隠れるようにして入つた。

星也「とりあえず必要になりそうなものを探しましょ。」

星也は倉庫の探し始めた。すると、

星也「これは…ハンドガン！？しかも外国産のブラックティルだ。どうしてこういったものが…？」

星也は日本にあるはずのない外国産の銃を見つけ、驚いている。なぜあるのか疑問に思つたが、

星也「ま、いいか。この状況では持つていたほうがいい気がします。」

「星也はとりあえずハンドガンのことについて考えるのをやめた。結局、その後はハンドガンの弾、非常食くもちろんのこと、ゾンビ（今の星也にとっての暴徒化した民間人）のお出迎えである。

星也「人は殺したくないが…仕方がない！正当防衛です！」

そう言ってどこから出したのか手には刃のついた銀と赤色のチャクラムが握られていた。そして、星也はそれを持つてゾンビ達にむかつしていくのであった。

第2話 倉庫（後書き）

次回は星也のプロフィールです。引き続き意見、感想お待ちしています。

主人公紹介（前書き）

星也のプロフィールです。少し修正しました。

主人公紹介

才川 星也
さいかわ せいや

身長 172cm
体重 55kg
年齢 16歳

性別 男
性格 • 冷静

• 照れ屋
• 他人第一
• 時々腹黒い

誕生日 12月25日

好きなもの

- アイスクリーム
- お菓子（主にチョコやキャラメルといった甘いもの）

- 天体観測
- 他人を大事にする人
- 努力する人

嫌いなもの

- 生クリーム
- なすび
- ぎんなん
- 他人を大事にしない人

この作品の主人公。常に冷静沈着で仲間思いだが他人を大事にしない者だと相手を「ミミ」と同じような扱いになる。ある事情で0～6歳の記憶を失っている。恋愛にとても鈍感。

身軽で味方も敵み翻弄する動きが得意。近接系の武器ならなんでも使える。

能力

- ・自由にチャクラム（キングダムハーツ？のアクセルと同じもの）を出したり、消せたりできる。

もう一つ能力があるがまだストーリーにでてきていなため秘密です。

主人公紹介（後書き）

引き続き意見、感想お待ちしております。

第3話 野比のび太（前書き）

原作主人公登場です。そして、オマケ…やつちゃいました。ま、そういうキャラにする方針なのでお許しを。

第3話 野比のび太

5分後10体くらいいたゾンビを一掃していた。

星也「なんか…肉が腐ってる?本当に生きている人間だつたのか…」

星也はゾンビの死体を見て思つた。…てか今更?

星也「……どこに行けばいいのだろうか?」

星也はどうするか考えた。そして、1つの結論にたどり着いた。

星也「……避難所を探そう。」

そう言つたのはいいがどこに行けばいいか分からぬ星也。迷つた

そのとき、

ギイイイイイ

後ろの倉庫の扉が開いた音がした。星也は軽く飛び、倉庫の扉と距離をとつた。しかし、いたのはゾンビではなく

星也「…生存者か。」

そう言つてチャクラムを下げ、消した。

?「生存者ですか。あの…一緒に行動しませんか?」

頼んできたのは黄色の服を着ていてメガネをかけた小学生くらいの男の子だ。

星也「別に構いません。ところで、どこへ行こうとしていたのですか?」

?「(年下に敬語?)えつと…避難所になつてゐる小学校です。」
その言葉を聞いてラッキーと星也は思つた。避難所を探す問題が解決できたからだ。

星也「分かりました。では同行させてもらいます。」

星也はそう言つた。

?「あの…お名前は?」

星也「僕?僕はオ川星也。星也と呼んで貰えたら光栄です。」

?「僕の名前は野比のび太です。」

お互いの自己紹介が終わり、小学校へ歩いていった。

オマケ

あれ、ここどこ？どうしてこんな火事になつてる家の前で寝ていた
？なんだれ？ええ！？ゾンビ！？
な、なんで現実に！？わ、わあ！カ、カラスまで！？と、とにかく
逃げよう。あと、言っておくことが
「上から来るぞ！きをつけろ！」
そう言つて俺は走つた。風となつて……

第3話 野比のび太（後書き）

次回オリキャラ一人、コンピューターゲーム『怪異症候群』から一人出します。『怪異症候群』が分からぬ方は少し調べてみてください。

第4話 生存者（前書き）

あとがきのほうで何かやろうつかな？

第4話 生存者

学校に入った星也とのび太。

のび太「どうします？」

星也「まず近くの部屋から入って行きましょう。」

そう言って星也は生徒玄関から一番近い「保健室」の扉へと手をのばす。

ガラッ

? 「だ、誰だ！？」

星也が扉を開けると中にいたオレンジ色の服を着たゴリラみたいな男の子が金属バットをこっちに向けてきた。

星也「落ち着いてください。僕たちは生存者です。」

? 「…そつみたいだな。悪かつたな。」

星也が「ゴリラみたいな子にそう言ひとその子は金属バットを下げ、納得してくれた。その間にのび太が保健室に入っていた。

のび太「ジャイアン！それにみんなも！」

? 「のび太さん、無事だったのね。」

? 「のろまなお前がよく生きてたな。」

のび太「……」の人達は?」

ジャイアン「とりあえず、ここに避難してきた人達だ。」

のび太は友達と会えて安心の表情を見せた。ジャイアンはここにいる人はみんな避難してきた人だと言った。星也はそののび太達のやりとりの間に生存者の数を数えつつ、どんなような人か把握していた。

星也（小学生が5人、中学生が1人、同じ年齢の女性が2人、50代の大人1人、自分を含め10人か。ん、待てよ、さつきいたのつて……）

星也が生存者を数え終わつたところでふとある人のことを考えた。そのときに、

? 「……もしかして、星也君?」

星也「美琴さん?」

美琴「やつぱり、星也君だ!」

美琴は星也と会えて飛んで喜んだ。

ジャイアン「2人知り合いでですか?」

星也「はい。同居している人です。」

のび太「同居?」

星也「はい。美琴さんはある事件をきっかけに1人になってしまったんです。僕は1人暮らしだったので、部屋を貸してあげてるんです。」

星也がそう説明するとその場にいる全員が納得した。

星也「あ、紹介が遅れました。僕は才川星也です。星也と呼んで貰いたい。」

？「私は源静香よ。」の学校の6年生です。」

？「僕は骨川スネ夫。」

ジャイアン「俺は剛田武。みんなからはジャイアンって呼ばれている。」

のび太「僕は野比のび太です。」

？「僕の名前は出木杉英才です。彼らと同じ6年生です。」

？「……中一の白峰。」

？「私は桜井咲夜よ。よろしくね。星也君。」

？「私は町内会長の金田正宗様だ。」

星也（なんだ?）の人?）

けつこうシリースな感じでみんな自己紹介をした。そして、ジャイアンが何か言おうとしたときに、

?「なんだー？」の学校はー？』

といつ声が聞こえた。なんだー？と言われてもただの学校です。

?「せつかくだから俺はこの赤い扉を選ぶぜ。」

その声が星也達がいる保健室前から聞こえた。みなさんもう分かりますよね。前回オマケに出ていた彼です。

星也（あいつもきてたのか。）

星也はもつ誰か分かつたようだ。

?「ジャジャーン」

ガスツ

?「うづえつ。」

謎の男がいきなり効果音をつけ、入ってきた。入った途端に星也に蹴られた。

星也「誰もいなかつたら、やりたい放題ですね、秀人。」

秀人「だからつていきなり蹴ることないじゃん。」

星也「見苦しかつたのでつい…」

星也と秀人がそういうやりとりをしてると、

出木杉「知り合いでですか？」

出木杉は星也に質問した。

秀人「わたしか？わたしは中村秀人。探偵さ。」

星也「彼は中村秀人。」

秀人「そして、またの名をモンキー・D・ヒーテト。」

星也「厨二病末期の患者です。」

やりたい放題の秀人をスルーして秀人を紹介する星也でした。

第4話 生存者（後書き）

すみません。分からぬネタばかりですよね。
意見、感想お待ちしております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9652y/>

ドラえもん のび太のバイオハザード イレギュラーな者たち
2011年12月1日21時49分発行